

EPA 学習支援方法 第3章

現場と国家試験対策に向けての上手な学習の仕方

- ★ 今月の【月報】で、「EPA学習支援方法」は最終章となる。3か月間の連載で、「学習支援方法」を取り上げたのは、初の試みだった。
- ★ 予想以上に読者の反響は大きく、弊社のHPを検索して、過去の【月報】の読み直しをするアクセスが非常に多くなった。また、滞在時間も、約10分～20分間と長く、施設並びに、病院関係者がこの問題に関して関心が高かったことを表している。
- ★ 「学習支援方法」シリーズを読み、弊社が行う【到達度試験】参加者も、直接申し込みが多く担当者も、この間多忙を極めたことは、非常に嬉しい悲鳴だ。
- ★ 特に、新規受け入れの施設・病院の関心が強く、「初めての経験なので、どうしたらよいか分からない」や、「具体的にどのような学習をしたら良いのか」などの質問が、多く殺到した。

I. 【あなたなら、どう教える？ 受験者反応の例】

- 「日本語の用法」について、受験者は表1に表した内容に関する質問や疑問を、常に多く持っている。受験者対応経験者には、表1の内容について、思い当たることがあるのではないかと。
 - しかし、このような質問に対して適切な対応・返答ができない場合には、ほとんどの者が「同じ意味だよ」とか、「日本人はそうのように話すからね」とか、訳の分からない方便を言って誤魔化す。いわゆる「自称 日本語教師対応」をとることが、非常に多い。
 - その結果、受験者は教育指導者に対して、表面では従順なようで、内面・裏面では非常に憤りを持った反発感を常に持っていることを、忘れてはならない。このことが原因となって、「学習意欲をなくす」「教育指導者に対する信頼感をなくす」とか、最も注目すべきことは、【日本語嫌いとなり、受験学習を拒否する】姿勢に変化している者が非常に多い。中には、それを理由に帰国してしまう者すらでくる。
- ※※ 多人数教育の日本語学校や専門学校に入れた場合には、授業内容を理解することができず、また、受験者が教師に質問する能力がないために、無駄に時間を過ごしてしまった実例が、全国のEPA受験者に多数あることを、認識しなければならない。

表1. 日本語の使い分け方

①	助詞の用法間違い
②	漢字の音・訓読み間違い
③	類似語の間違い
④	い・な形容詞の使い方間違い
⑤	専門領域の間違い
⑥	文の種類の違い 名詞文とな形容詞文の違い

＜経験者の声＞

三年間、日本語学校に通学させたが、授業内容が分からなかったと、三年後に言われ、二者とも結局、不合格となった。

II. 【「一番速く効果の上がる学習方法」とは？】

- 何といっても【覚えるのではなく、理解する学習方法】が、一番速く効果が出る方法だ。これは言語教育に限らず、他の分野の教育においても、世界的に立証されている学習方法だ。
 - EPA受験者の学習の在り方の現状は、専ら「覚えさせる教育」が横行している。「暗記法で意味不明であっても、無理矢理覚えさせる方法」をとって、「学習の強要」を行っていることと全く同じだ。それが原因で、学習意欲を損ない、「日本語は漢字が難しい」などと言いつくすることで、覚える学習を拒否する姿勢が強くなる。
 - 上記のような教育方法は、戦前の教育方法に由来しているもので、現代の教育方法からすると、日本語教育分野では約100年もの間、何ら進歩していないことを何わせる。その結果が、国家試験合格率に表れていることを是非、関係者は再認識してほしい。
- また、教材の選択次第で【覚えるのではなく、理解する学習】を、選ぶことも可能だから、よく教材を吟味することだ。（表2参照）

III. 【確実に合格できる方法とは？】

- 表3の通り、在日期間を3等分して、それぞれの年の目標を明確に設定することだ。1年目は「日本語力」を充実させて、2年目は「専門領域の語彙や知識」を身につけさせ、3年目は試験に向けての「受験能力」を養い、最終的には「合格能力」を養う計画で、学習目標を確立させることこそが、合格に結びつく一番速くて確実な方法だ。

表2【悪い学習方法の例】

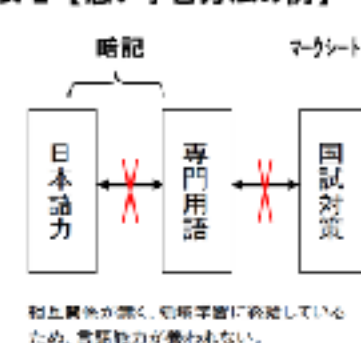
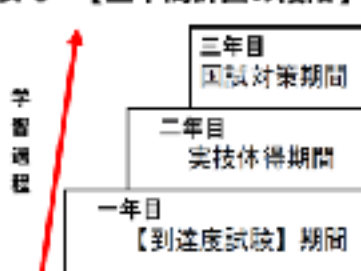


表3 【三年間計画の段階】



受け入れの心得！！ 三か月間の対応ですべてが決まる！！

【三つのキーワード！！】

- ① 教材の種類で、全てが決まる → 暗記教材ではなく、理解する教材を使わせること。
- ② 基本指導で全てが決まる → 就業規則を周知徹底させ、上司の指示は守らせること。
- ③ 対応ですべてが決まる → お客様扱いをせず、労働者として対応すること。
例) アパート家賃支払い・家電・PCは貸与すること

※ 三か月間業務を正しく行っていれば、施設の業務計画にあった実務をさせることができる。

2.【支援金を上手に使い、教育効果を高める！！】

- ※ 入職時の助成金は、満額ではなく部分助成金で、備品購入に使っている例が多く、教育は放任状態。
- ※ しかし、この期間の教育こそが、最も重要学習期間。助成金を上手に使うには、この期間に使うことだ。

<現場の声>

3か月間位は、生活習慣に慣れさせる。支援金も満額出ないため、PC代や備品に消えるので、教育費が捻出できない。

3.【やってみなくては分からない、という考え方は危険！！】

一年目は職員が教育をする考え方が多い。しかし、二年目からの【到達度試験】参加者が多いことは、職員では対応できなくなり、専門家に依頼することになったことを表している。

<現場の声>

とりあえず、職員がやってみて、それから考える。

4.【施設内での意見の対立は、合格への道に大きな壁！】

- ① 現場と事務方の意見対立があり、教育方針が一貫していない状態。
- ② 施設と本部との教育方針が異なり、教育効果が見られない本部の方針に従っている状態。
- ③ 人脈による日本語教師の採用で、不合格者を出し続けても、教師と縁が切れない状態。
- ④ 教育担当者の退職や、転勤で教育方針に一貫性がない状態。
- ⑤ 他部署からの批判があるにも関わらず、唯我独尊で教育し、不合格を出し続けている状態。
- ⑥ 専門家でもないのに、専門家ぶりした教育指導者のため、不合格となり、それを改善しない状態。

<現場の声>

現場では今の学習方法や指導だと、日本語力もままならず、学習意欲も高まらず、合格はできなと感じて、何とか、他の指導方法に切り替えたいと、皆が思っているのに、法人本部が全く考えようとしません。

施設利用者・患者と楽しくコミュニケーションをとり、脳を刺激する時間を作ろう！！

あなたなら、どう教える？！

【慣用語編】

設問1、「すみません」と、「ごめんなさい」の違いは？

設問2、「ごますり」と、「御世辞」の違いは？

【語彙編】

設問3、「明日」と、「翌日」の違いは？

設問4、「私」と、「自分」の違いは？

【接続詞編】

設問5、「それから」と、「そして」の違いは？

設問6、「しかし」と、「けれども」の違いは？

- ※ 上記のような例を一語一語教えるのは無理な話。
【日本語の用法と運用】に対する理解が必要。
- ※ 「用法と運用」には誰が見ても、はっきりと分かる「規則性」がある。この「規則性」に則って理解させれば、全ての語の理解が受験者自身で見出すことができる。
- ※ 【到達度試験】参加者には、このような指導をします。

【ひらがなカード】の使い方を紹介！！

- ★ 「ひらがなカード」と聞くと、そのイメージは、子供の遊び道具の類と捉える人が多い。
- ★ しかし、使い方次第では、高齢者の「脳の活性化」と、「記憶力の向上」を促す有効な手段として使われている。
- ★ 以下に実際使われている例を紹介する。
 - ① ひらがな文字カードを使い、50音順に、並べる速さを競う。
 - ② 例えば、「け」を置き、「上下左右」に関連するカードを置き、並べる。
 - ③ 50音表のように配列が完了すれば、「口口は どれですか？」と、質問して、「カード選び競争」をする。
 - ④ 一枚「け」を出し、「言葉づくりゲーム」を競わせる。
 - ⑤ 裏面の「絵カード」を使い、カードの種類分け競争をさせて、文を作らせる。できるだけ長い文にさせる。

施設の声

こんな方法で良いのだろうか…？

- ベトナム人の受験者を受け入れている。一名は、N3で、もう一名はN2を取得している。普段の会話で困ることはないが、初めての受け入れなので、学習の仕方について、試行錯誤しながら、職員が指導をしている。
- 今は、日本語と介護の勉強を切り離して、別々に学習している。介護の勉強では現場の介助の仕方と、国家試験に出る問題とは違うので、どちらを先に教えたらいのかを悩むことが多い。
- 就労の勉強と、国家試験介護問題の勉強とは異なっているので、この点でも悩んでいる。国家資格を取得したからといって、現場でスムーズに働けるかというと、そうではないし、本人たちは、まず、業務に慣れて仕事が早くできるようになりたいという意識が高い。
- 学習と仕事のモチベーションが下がらないように、対応することが大切なのかと思っている。

(奈良県・M施設)

【月報 60号】の問題をやってみた！！

- 【月報】は毎号参考になっている。記事内容も難しくないで、分かり易いと思う。私は【月報 60号】の2ページ目の問題を試してみた。「熱が出た」と「熱を出した」の違いが「×」だったが、後は全部正解だった。
- 受験者二名とも、学習は順調に進んでいる。また、1日1回は日記を書かせている。さらに、宿題も出して、それを基に指導している。今では、文書も書けるようになってきている。

(岡山県・S施設)

「新規受け入れ」の心配の声

- 当施設は、福井県で初めて12月にフィリピン人候補者を受け入れることとなった。当地は冬に、大量の雪が降るので、雪の降らないフィリピンとは、生活習慣の違いもあるだろうから、そこが受け入れで気になる点だ。
- 施設側がどこまで、「生活の準備」をしてあげたらいいのか、「仕事の導入の仕方」など。そして、英語と日本語で対応したほうがいいのかなどなどの心配が沢山ある。
- 学習もこれからしていくので、学習と仕事のバランスの取り方をどうしたら良いのか、分からない。

(福井県・A施設)

日本語力に差を感じるが…？

- 初めて受験者を受け入れた。ベトナム人二人だが、一人はN3、もう一人はN2を取得している。二人の間では、日本語力に差(N3、N2の壁)を感じているが、具体的には、二人の能力を客観的に把握しているわけではない。しかし、一緒に学習させるのは難しいような気がする。
- 事業団の説明会に参加したりして、他の施設の人などから、ベトナム人は良いという前評判を聞いた。また、日本と文化的にも似ていると思うから、ベトナム人を受け入れた。

(岐阜県・S施設)

前評判とは違う、ベトナム人だった！！

- 【月報 60号】を読みました。「施設の声」の記事で、「うーん、うちの候補者は、【月報】に書かれている通り、決して、ベトナム人の前評判通りとは違い、日本語力が高くない気がします。まあ、人それぞれだから、何ともいえないけれど。」
- インドネシア人・フィリピン人は、N3とらずに来るが、ベトナム人は一応、最低でもN3取得してくるということなので、スムーズに受け入れられるかなと思って受け入れを考えた。
- 競争率も高いので、受け入れは無理かなと思った。その理由は、「給料が高い施設や、都会に行ってしまうから、こんな田舎には来ないだろう。」と思っていたら、上手くマッチングできて、受け入れできたが、日本語力はどうすればいいかなあ？

(愛知県・Y施設)

担いどころがない受験者の能力に困惑！！

- もうすぐ入職して、1年が経過する。横浜市の研修に毎回参加しながら学習しているが、正直、伸びが具体的に感じられない。それは、事業団のテスト結果を見て、そのことがよく分かる。
- 仕事での会話などは、既に、1年間が過ぎようとしている。
- るので、前よりはできるようになったと感じている。しかし、難しい会話になると、会話が深まらない。
- 学習意欲がないわけでもなく、参考書を開いて、一人で勉強している。しかし、問題を間違えると、それを職員が指摘して指導すると、ちゃんと理解できるレベルにはなっている。
- 今やっている横浜市の学習には、ついていけないようだが、実際には、どうだか分からない。11月7日に受験者が集まって学習する機会があり、テストや、先生の指導を受けるので、どこが弱点なのかを、本人が自覚できるのではない。

(神奈川県・M施設)

◎ 到達度試験Aコース(独立型)

ことばの研究社

<自学能力養成型コース>

【一年目 到達度試験 初回レベル～Dレベル】

※ 【自学能力】を養うことを目的としたコースです。
言語能力は、日本人の中学2年生までの能力に達するようにプログラムされています。

※ 【自学能力】を養う教材を使用

主教材 ・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材 ・ひらがな絵かきど (瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と (構文力育成用)

・カタカナノート (説明文・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1 (基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2 (熟語漢字習得育成用)

・手渡し教材随時

【二年目 到達度試験 Eレベル～国試2レベル】

※ 日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。そのため、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文書で解答できる能力が育成できます。

※ 主教材 ・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【三年目 スカイク授業 5回(1回2時間)】

※ 日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

※ 主教材 ・専門参考書

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【指導内容】

① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導

② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導

③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書提出し、現場の指導に役立てます。】

※ 【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※ スカイク授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※※ 価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一
年
目

★基礎言語能力の育成

①日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。

②1,755語の基本漢字が習得できて、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。

③会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。

●日本語能力を養う

①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで、できるようになる。

②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できるようになる。

③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができるようになる。

④簡単な業務日誌が書けるようになる。

二
年
目

★生活言語能力の育成

①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。

②仕事を自主的に行い、責任を持って業務を遂行する能力を養う。

③日本語力を高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。

●国家試験受験能力を養う

①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えられるようになる。

②専門用語の漢字を「類推して読解」できるようになる。

③自学で「過去問」ができるようになる。

三
年
目

★職域言語能力の育成

①日本語を使った「業務実践力」を行える能力を養う。

②会議等で意見を発言し、内容把握ができる能力を養う。

③要約力を養い、会議等で的確なメモをとれる能力を養う。

④日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養う。

●国家試験合格能力を養う

①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できるようになる。

②日本事情の専門知識を体系的に把握して読み理解できるようになる。

③マークシートの解答ではなく文書による解答ができるようになる。

◎ 到達度試験Bコース(併用型)

< おまかせコース >

【一年目 到達度試験(初回～Dレベル)+スカイプ】

※【自学能力】を養える【到達度試験】と対面教育ができる「スカイプ授業」を併用しています。

日本人の中学2年生までの能力に達するプログラムで、特に、正しい会話力が身につけられるコースです。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材・ひらがな絵カード(瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と(構文力育成用)

・カタカナノート(説明・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1(基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2(熟語漢字習得育成用)

【二年目 到達度試験(E～国試1レベル)+スカイプ】

※日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。

スカイプ授業併用型なので、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文章で解答できるようにプログラムしています。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

【三年目 到達度試験(国試2レベル)+スカイプ】

※日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

日本人の職員と同等に業務ができるまでの能力に達するように、プログラムしています。

また、国家試験合格後でも、同じ職場で働く意欲を養うことも目的としています。

※主教材・専門参考書

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

【指導内容】

①職種に合わせた専門書の理解の仕方指導

②類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導

③要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書を提出し、現場の指導に役立てます。】

※【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※スカイプ授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※※価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一年目	★基礎言語能力の育成 ①スカイプ授業を併用するために、対面学習で、適切なプロの指導が受けられる。そのために、確実な日本語力が養える。 ②日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ③1,755語の基本漢字を習得でき、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。 ④会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで到達できる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができる。 ④簡単な業務日誌が書ける。 ⑤スカイプ授業は、受験者の表情を教師が読み取れるので、「本当に理解しているか、どうか」が判断でき、確実な言語能力がつく。
二年目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的にやり、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本人の高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。 ④日常会話力が支障なく使える能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えることができる。 ②専門用語の漢字を「類推して読み、意味理解」できる。 ③自学で「過去問」を解ける。 ④スカイプ授業併用型なので、問題・疑問が、その場で解決できる。
三年目	★職域言語能力の育成 ①業務の実践力を養う。 ②会議で意見を発言して内容把握でき、メモをとる能力を養う。 ③話の内容を的確に、まとめる能力を養う。 ④日本人社会人と同等レベルの言語能力を養う。 ⑤スカイプ授業なので日本人感覚の「語感・語調」を、正しくプロの教師が養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して、読み理解できる。 ③マークシートの解答ではなく、文章による解答ができる。 ④専門語彙と専門知識を自学できる。

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

EPA学習支援 こぼの研究社

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い、言語技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は介護分野では、国家試験合格者を **3年間連続で、80%以上の実績を誇っています。** また、看護分野でも、EPA受験者全体の合格率が10%前後に留まっているのに対して、【到達度試験参加者】の合格率は、**55%**と高い水準を保っています。

これは、**受験者全体の合格率10%の5倍の高さ**を示しており、驚異的な合格率といえます。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で社会人として働ける能力を養うことを、重要視した学習方法です。

さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、介護施設や病院などで実践力のある要員として、育成することを目的としています。

※【到達度試験参加者】には、定期的に試験結果を「考察票」でお送り致します。 「考察票」には、指導者用のために、具体的な指導方法を記しておりますので、安心してご指導頂けます。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職業言語能力を養う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字 熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 （語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生活言語能力を養う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基礎言語能力を養う
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・ 漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回		受験者の現状の日本語能力を観る。		

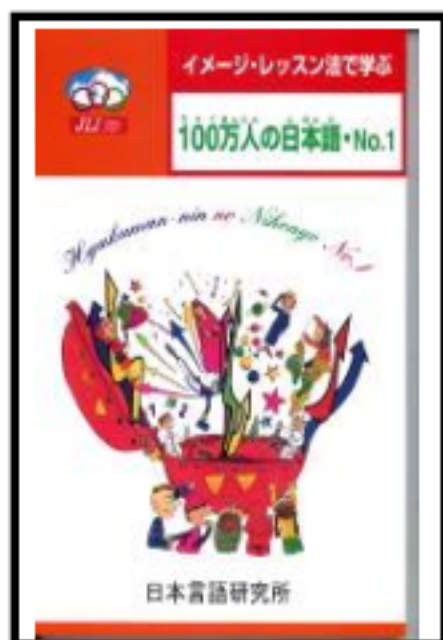
自学能力を養うための 適切な教材！！

- ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている

EPA学習支援
スカイプ・総研の問い合わせ先
ことばの研究社
電話：086-431-3481
FAX：086-431-3482
岡山県倉敷市庄新町 8-4-12

学習支援 主教材

基礎言語能力レベル

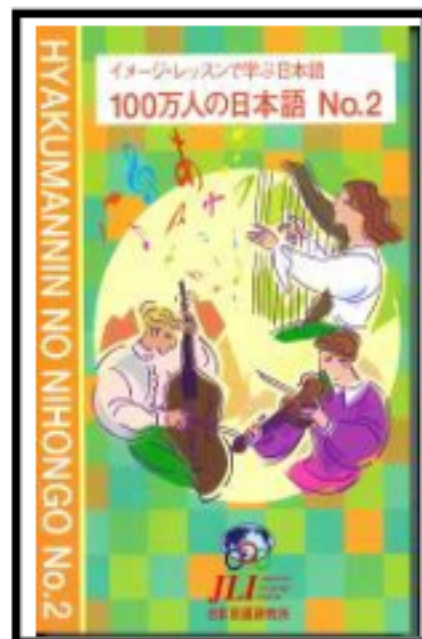


【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

ひらがな・基本漢字の習得とともに、全ての言語活動の基本となる概念を形成し、名詞文・存在文・普通動詞文を無理なく学習できる構成となっています。(2,805 円)

※ 習得漢字数 310 字～620 字

※ 習得語彙数 520 語～1560 語



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

会社や学校、家庭内などあらゆる場面における会話文を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。また、形容詞文学習により心情・語感表現力の基礎を築きつつ、各ページのコーナーで日本語のあらゆる規則性と用法を自学できます。(2,805 円)

※ 習得漢字数 420 字～840 字

※ 習得語彙数 570 語～1,710 語

生活言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

日本社会に適應できる人間関係を理解して、目上の人に対する礼節を保つ表現力が身につきます。

論理的に文を組み立てた長文が書けると同時に、漢字熟語を使った要約文を書けるようになります。

仕事に関連する語彙を自分で辞書を引いて調べることができます。(3,300 円)

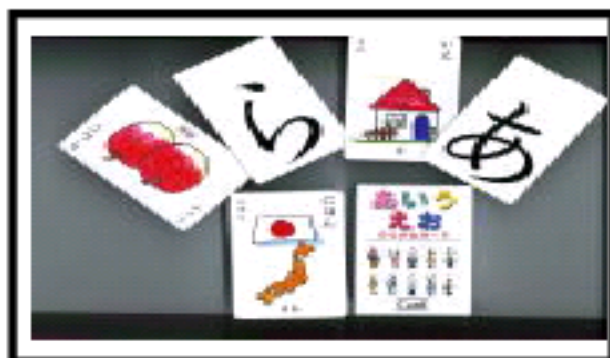
※ 習得漢字数 850 字～1,700 字

※ 習得語彙数 1,110 語～3,330 語

使ってみてビックリ！
教育効果の高さ
学習支援 副教材

基礎言語能力レベル

職員の手が掛からずに、
受験者だけで勉強できる教材



表面にはひらがな文字が一文字ずつ書かれており、裏面にその文字を使った語のイラストが色彩鮮やかに描かれています。

イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら自学できるつくりになっています。基礎教育の日本語学習者に最適な内容になっています。

(1,155 円)



ひらがな文字の自学に最適な教材です。字形、書き順などの練習だけでなく、全ての日本語の基礎となる「しつもとこたえ方」に絶対必要な発話方法を、身近な事例を使って学習できるようになっています。社会生活に必要な最低限の語彙も同時に習得し、定着できるように作られています。

(1,980 円)



『100万人の日本語 No.1』に沿った構成となっており、文型・成文の習得をしながら効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。

非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適。

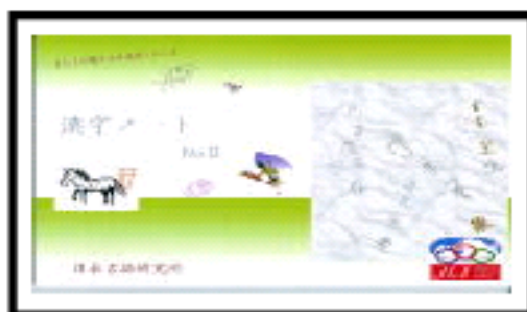
また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

生活言語能力レベル



カタカナ語彙を使った場面を表すイラストが各ページにあります。このノートは説明文と会話文が織り成されています。この場面を紹介する文は、外来語の理解とその言出し練習をしながら、練習問題によって読解力と文型の応用力を養えるようになっています。

(1,496 円)



『100万人の日本語 No.2』に沿った構成となっており、漢字習得と成文練習のみならず、読解力も同様に養えるように作られています。

漢字の「へん・つくり」の付録もあって、漢字の成り立ちに対する理解ができる内容となっています。

非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適。

また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)